

# 第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「紫蘭と君と」

テーマ:「死んでいるのにのに、忘れないない美少女」

キャラクター

45

ストーリー

35

テーマ(設定)

40

文章力

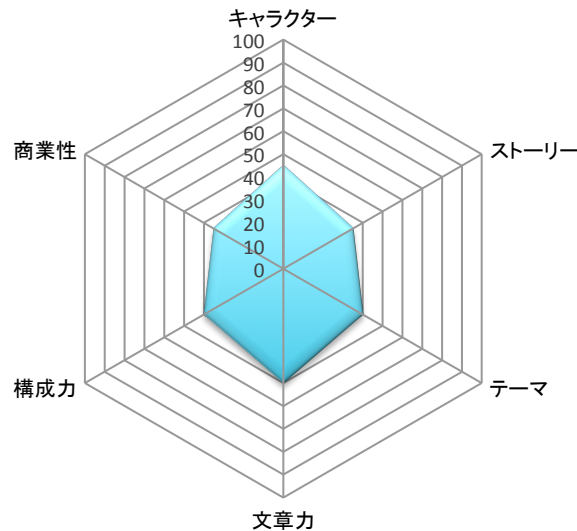
50

構成力

40

商業性

35



## ・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

## ・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・非常に分かり易いストーリーラインで読み易いテイストとなっていた。ただ感覚として、ひたすらまっすぐな道を走っているだけの様な退屈さも見受けられたため、もう少しストーリーラインにひねりが加えられると良かったのではないかと感じる。友達に亡くなりそれがきっかけで自分も危険な状況に陥るがそれを死んだ友人が助けてくれるというのは、王道ではあるが多少ながらオリジナリティに欠けている。

・ですます調を使用していることに関しては賛否両論が分かれる所であると思うが、読んでいてそれはそれで味があり面白い試みだと感じた。ただですますを使うのであれば最後までですます調で通した方がよいというのと、本来人間の死を扱う緊張感のある物語とですます調のもつ柔らかさは決して相性のよいも・ではないのでその点に注意。

・美優さんのキャラクターは人によっては薄くてよく分からない等批判を受ける可能性があるが、個人的には非常に好みであった。

・作品投稿期間外で投稿したことによるペナルティ(-10×遅延分数)

合計減点ポイント: -10

総得点: 245 / 600

B方式総合得点: 9004 点